

浜坂病院 発熱外来診療体制整備・ワクチン接種にも協力中

【整形外科受診】6月27日(月)久保医師の診察を受けました。2週間前に受診し、肩の痛みを和らげるための処方をしていただいた後の経過報告と今後の治療方針を見極めてもらうのが目的でした。副作用の少ない薬なので「50%程度の痛みの軽減」があったのならと、当初の処方薬を続けることになりました。最後に「内科と違って整形の薬は自分で調整して飲んだら良いんだ。薬がなくなったら来なさい。」との言葉。気持ちの良い受診になりました。

風力発電関連新情報はありませんでした。



災害ごみの無料搬入

火災や風水害などによるゴミのクリーンパーク北但への無料搬入の制度があります。

火災などについて消防署が発行する罹災証明書が必要になりますが、現在迅速に発行できるよう変更されています。被災者に寄り添う制度です。
(担当: 町民安全課)



浜坂高校存続は重要課題

今年度から県の要請による浜坂高校補助職員を本町が雇用することになりました。就職や進学の手続き業務を補助することが目的です。これは、全県下での動きであり、浜坂高校が進学志望される高校として存続できるかは、この地域の本気度にかかっていると思います。学校説明会で私立高校に劣ることは、我が町にも責任があると思います。

議員研修会で学んだこと

小学生の頃、先生から「但馬の連れしょん便」という言葉をよく聞かされ、但馬では「弁当を忘れても、傘を忘れるな」と並ぶ名言だと子どもながらに心に刻んでいました。

印象に残っているのは、当時、旧温泉町内の6小学校の会場を持ち回りでの年に1回開催されていた音楽会でのことです。演奏の合間に一人の児童が「先生おしっこ」と申し出ると「僕も」、「私も」と結局ほとんどの児童が、お便所に駆け込んだ様子です。そんな場面が様々な行事ごとに見られたように思います。そのことを思い出すと「但馬の子ども達は引っ込み思案」なのかなと思っていた気がします。しかし、今は「但馬の子ども達は正直」だったんだと思うようになりました。

最近、「サイレントマジョリティー」という言葉が使われ、「声を上げないことで、差別や悪い事柄に無意識であっても賛同・承認することになる」と言われるようになってきました。遠慮して「黙っている」ことが議論を高めないことにもなります。最初の「先生おしっこ」が言えなくても「僕も」、「私も」が大きな声で言えたことは、とても重要なことだと思ってきました。



大人社会では、どうでしょうか。身近な多くの会議で「黙っている」ことが常態化しているようにも思います。つまり大人社会は場の空気(気配)に支配されてしまうのでしょうか。

ユダヤの教えにある「全員一致の審決は無効」と議員研修会で学んだ「警鐘」を今後も心に刻んでおきたいと思います。

むだばなし

農作業をしながら、帰ってくる中学生に「お帰り」と声を掛けると「さようなら」という返事を返してくれました。

忘れていた新鮮な響きを感じました。私が小学生だった50年以上も前から下校中のご近所さんへの挨拶も短縮した「さいなら」だったことを思い出しました。

これも、先輩から受け継いだ挨拶だと思いますが、どこから生れたのか意味の通った不思議な、しかし、愛すべき挨拶だと思います。少なくとも半世紀を優に超える大切な伝統のように感じました。一般的には、「こんにちは」の時間帯が多いのではないかと思います。学校での下校集会で「さようなら」の挨拶で帰って行くことから生れたのかも知れません。

その下校について、中学生の頃「登下校」を多くの先生と生徒が「とうかこう」と言っていたことを国語の上田先生が「とうげこう」なのに「なぜ?」と言っておられたことを思い出しました。その後、いつの間にか「とうかこう」とは言わなくなりました。

《 議会報告会 》
① 7月11日(月) 町民センター
② 7月13日(水) 多目的集会施設
時間: 19:00 ~
(各会場共通)
是非、皆様の声をお聞かせください。

町政報告 2022年夏第19号

とち
柄の実 通信
(ただっちゃん つうしん)



新温泉町議会議員

かわごえ

河越ただし

住民の幸せ追求が町政のつとめ

発行: 河越 忠志

〒669-6801 新温泉町井土 978-1 TEL0796-92-2428(事) 92-2550(自宅)

E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp https://www.facebook.com/tadashi.kawagoe.1

上山高原三角点からの絶景



多くの山頂越しに日本海の水平線が望めます

浜坂認定こども園整備(解決できるのか?)

令和4年4月、浜坂認定こども園整備に関して、全議員の個別の意見を聞きたいとの町長からの申出がありました。議長、副議長で協議をされ、対応は個々に任せることを前提に、議会として受け入れることが決定され、結果的には全議員が応じたように聞いています。

4月11日、私を皮切りに、月末、中村副議長まで、町長、副町長、教育長、こども教育課長と各議員との懇談が持たれました。こんなことは、私にとって前代未聞の出来事であり、町当局も懸案解決に向けて本気になったんだなあと好意的に受け取り、懇談に望みました。

私は、この件に関する町長の公約の範囲内を基本にした解決策を文書にまとめ、ほぼ一方的に説明しました。

まちの皆さんからは、「早期決着が第一」の声が最も大きく聞こえてきていたためです。

しかし、防災+保育機能の面では、園児や保護者さらに職員さんの当事者としての立場を考え、絶対に妥協できない点も主張しました。詳細については次項をご覧ください。

課題解決に向けた姿勢なのか?

6月議会中には、この件に関する一切の提案はありませんでした。唯、私が衝撃を受けたのは、4月に持たれた全議員との個別懇談に関して、私の「今後どのように進めていかれるのか?」の投げ掛けに「考えは全く変わっていない。最初から考えを変えるつもりはなかった。」と答弁されたことです。この答弁は全議員に対する侮辱に相当し、課題解決に向けた姿勢とは思えません。議会は「まちの声、皆さんの声」のはずです。

浜坂駅前周辺活性化

投げ出すも同然

令和3年度「浜坂駅前周辺活性化方策検討業務」委託料700万円について、本年3月議会で全額が減額補正されました。しかし、理由が不自然だったことから、6月議会で一般質問として問いました。

「県道整備に附帯した浜坂駅前広場の整備と周辺活性化は密接に関連があるが何故、方策検討業務を取り止めたのか。」の問いに「取り止め理由は、通告になかったので答えられないが、駅前広場整備は商店街の皆さんの意見を聞いて進める。」との町長答弁。担当課は「地図混乱があることと地域の方々の意見がまとまらなかったこと」を理由に挙げた。これは「投げ出す」も同然だ。



個別懇談 浜坂認定こども園・既存活用整備に向けて！



現在地周辺で整備するには(懇談)

整備にかかる共通事項

- 条件①) 洪水による孤立を回避する形態での整備
- 条件②) 歳出を抑える整備（既存施設の耐震改修）

統合を前提としない場合

- 条件①) 歳出を抑える整備（最小限の規模での整備）
- 条件②) 大庭の耐震改修（0歳児保育を含む）先行推進

統合を前提とする場合（方針変更）

- 条件①) 大庭こども園の転用計画を含む耐震改修先行整備
- 条件②) 統合認定こども園として整備する旨の事前表明

別の視点での参考意見

- 条件①) 小学校の統合議論を進めること
(統合こども園にも関わる)
- 条件②) 求められる保育環境（需要）の正確な調査の実施
- 条件③) 既存施設等を活用した0歳児保育環境等の先行整備
- 条件④) 千年に1度など非常時の臨時保育環境の整備（備え）
- その他) ・“過去に災害はなかった”は行政としては無責任
・地元の方々の意見に変化が見られるようになった
・現在地周辺での整備に明確な理由付けがない

防災

昨年「ひょうご防災リーダー研修」を受講させていただきました。防災は災害時に公の支援を待つのではなく、地域が連携した「防災力」備えることにより、被害を最小限に止めることが重要だと学びました。公は個人や地域ではできない部分の支援や安全な環境、災害を未然に防ぐための整備を行います。水害・土砂災害防止のための河川整備や堰堤の建設などが一例です。費用対効果を見据えた整備が進められています。

現在地活用推進の理由

理由① 現在地周辺での整備を純粋に望んでいる方がおられ、且つ、意思表示されてきたこと。私には短期間で、この要請を打ち消すだけの合理的対案が示せないこと。また、このような思いは、町の地域づくりに活かすべきだと思うこと。

理由② 既に実施されたアンケートにおいて、既存施設が概ね受け入れられていると判断できること。

理由③ 施設過多と言われている中で、スクラップ＆ビルドはSDGｓに反していると思えること。

理由④ 浸水による孤立の危険性除去に迅速な対応が可能なこと。

理由⑤ 令和7年度までの有利な地方債が活用できること。（過疎債の枠を残すために。）

理由⑥ 今は、整備費用を最大限抑えて、ソフト分野の子育て支援予算を確保すべきだと思うこと。

配慮すべき課題

課題① 今の児童・保護者など当事者がなおざりにされていないか。

課題② 洪水による今の危険性除去の対応を改善すること。

課題③ 浜坂認定こども園の周辺道路の冠水などにより、怖い経験をされた職員さんがおられるにも関わらず、その声が周知され活かされていないこと。

課題④ さらに古い大庭認定こども園整備がなおざりにされていること。

浜坂中心市街地活性化に向けて（H14 年度）

平成14年度から旧浜坂町では、空洞化が進行していた中心市街地の活性化を図るため、中心市街地活性化基本計画の策定に取組み、平成15年度で一定の取りまとめが行われました。

当時は、町外在住者ではありませんでしたが、建築設計事務所主宰者の立場で、その策定委員会に加わらせていただきました。

私は、住まいデザイン部会に所属していましたが、先進地視察として、「白壁土蔵のまち」倉吉市打吹地区や当時の鳥取県気高郡鹿野町の「鹿野城下」のまちづくりも見学させていただきました。

昨年の3月議会で提案された予算に「浜坂駅周辺活性化方策検討業務」の委託料700万円が計上されていました。

これは、現在、整備が進められている県道浜坂駅港湾線整備に附帯する形での整備が求められている浜坂駅前広場の整備と連動する周辺の活性化策をつくるものでした。

私は、従来の事例に多くあったコンサルタントへの「丸投げ」にならないよう、この事業の進め方に対する付帯決議を発議し可決されました。以下が、その内容です。

付帯決議（河越発議抜粋）

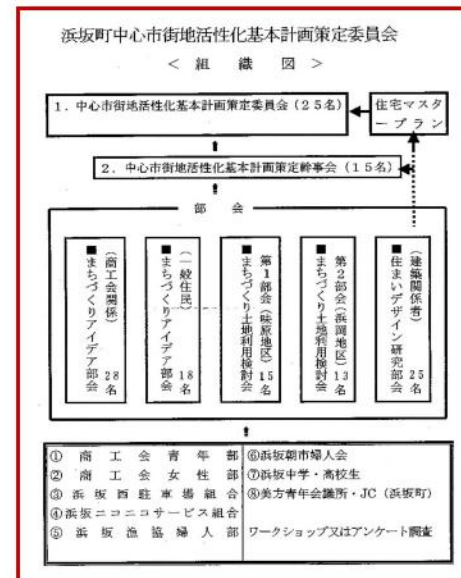
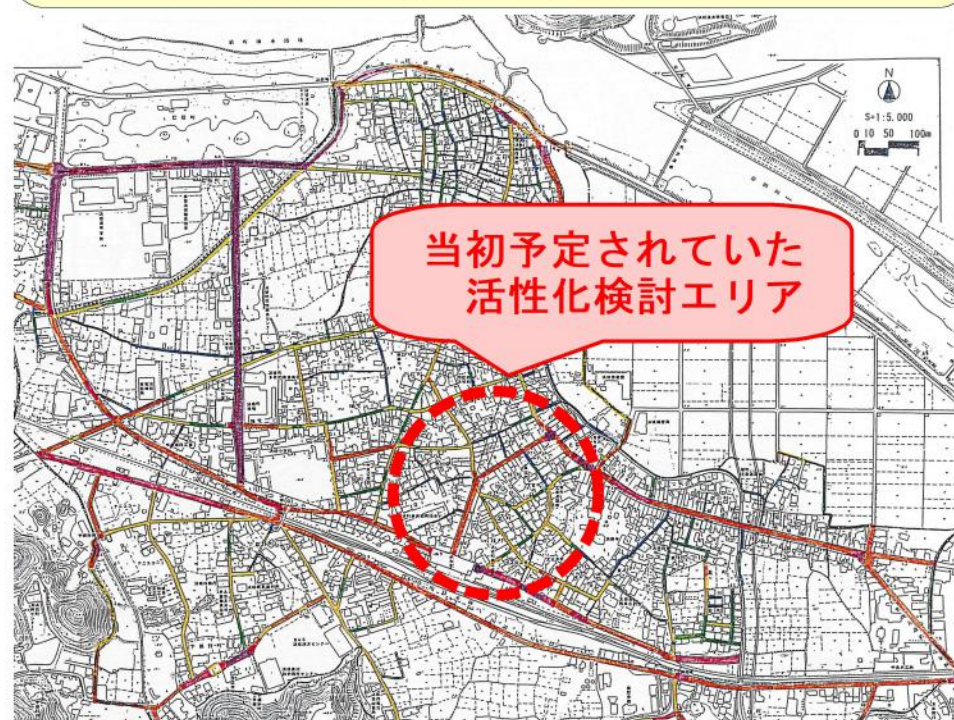
浜坂駅周辺活性化方策検討業務について、担当課の当該予算執行にかかる検討及び準備が整っていないことが判明した。

当該地域は本町の振興に大きな影響を与える存在であり、浜坂中心市街地の活性化は喫緊かつ重大な課題でもある。それ故に、地域の合意形成への道筋設定をはじめ、推進には十分な検討を重ねる必要がある。また、本町合併前の平成15年度には当該地域を対象として「浜坂町中心市街地活性化基本計画」が策定されており、地域住民を含む多くの方々が関わられた経緯もある。

については、本件事業の執行にあたって、下記の事項が満たされるまで、当該予算を執行すべきではない。

記

- 1 本事業の十分な準備検討に基づき、総務産建常任委員会で当該執行計画の詳細な説明を行い、了承を得ること。



(H14 当時の策定委員会組織図)

浜坂中心市街地活性化基本計画策定から19年が経過しましたが、大きな進捗はありません。この機に見直し、有効活用すべきだと思います。すべてを担当課が担う必要はないと思います。

鹿野のまちづくりを担ってこられた「鹿野まちづくり協議会」は、20年間の活動の歩みを書籍にまとめられました。



皆さんと一緒に話しをお聞きできる機会を持ちたいとも思っています。



この度の浜坂駅前広場の整備は、県の事業に附帯して実施する必要があり、その整備と駅前周辺の活性化施策との連動性は必須だと思います。

成り行きで進められる事業ではないと思います。町当局の姿勢が問われています。

